



第8回 長崎大学病院 ICLSコース報告書



長崎大学病院は、救急医療教育の一環として、全研修医の日本救急医学会認定『ICLSアシスタントインストラクター』資格取得を目指しております！

平成27年8月22日(土)開催

**共催：長崎シミュレーション教育研究会
長崎大学病院 医療教育開発センター
救急医療教育室**

協力：日本光電九州株式会社

コースの目的

本コースは、初期研修医の救命医療における知識と技術の向上を目的として開催した。

ICLSとは

日本救急医学会が主催、または「コース認定」をして行う、医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心臓血管系の緊急病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標とした、実技実習を中心としたコースです。受講者は少人数のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。身につける行動の目標は以下の通りです。

- 蘇生を始める必要性を判断でき、行動に移すことができる
- BLS(一次救命処置)に習熟する
- AED(自動体外式除細動器)を安全に操作できる
- 心停止時の4つの心電図波形を診断できる
- 除細動の適応を判断できる
- 電気ショックを安全かつ確実にこなうことができる
- 状況と自分の技能に応じた気道管理法を選択し実施できる
- 気道が確実に確保できているかどうかを判断できる
- 状況に応じて適切な薬剤を適切な方法で投与できる
- 治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を行動にできる

実施結果

受講生18名が当コースを修了し、ICLSアシスタントインストラクターの資格を得た。

また、スタッフ(コースディレクター2名、インストラクター5名、アシスタントインストラクター6名)計13名で指導を行い、3ブースを問題なく運営した。

※スタッフ詳細はP.4



<実施内容>

開催日時	平成27年8月22日(土)9:20~17:00
受講者数	18名
対 象	初期研修医
場 所	長崎大学病院 シミュレーションセンター、リハビリ室

<スケジュール>

		グループ(1)	グループ(2)	グループ(3)
09:00~09:20	0:20	受 付		
09:20~09:30	0:10	オリエンテーション		
09:30~10:20	0:50	BLS+AED	モニター	気道管理
10:20~10:30	0:10	休憩・移動		
10:30~11:20	0:50	気道管理	BLS+AED	モニター
11:20~11:30	0:10	休憩・移動		
11:30~12:20	0:50	モニター	気道管理	BLS+AED
12:20~13:10	0:50	昼 食		
13:10~13:15	0:05	BLS・ALSデモンストレーション		
13:15~14:25	1:10	チーム蘇生 VF/VT	チーム蘇生 VF/VT	チーム蘇生 VF/VT
14:25~14:35	0:10	休憩・移動		
14:35~15:20	0:45	non VF/VT	non VF/VT	non VF/VT
15:20~15:35	0:15	休 憩		
15:35~16:35	1:00	メガコード	メガコード	メガコード
16:35~16:45	0:10	移動		
16:45~17:00	0:15	終了式・修了証授与式		

◆アンケート◆ 受講者の声

- ・挿管、除細動を前よりも自信をもって行えるようになったと思います。
- ・心停止のときに迅速に判断できるようになった。
- ・講習会は実際に体を動かして行うので、机に座って学ぶことよりも何倍もの価値があった。
- ・少しは体を動かせるようになったので今後の研修に役立てたいと思います。
- ・もしもの時にどう動くべきかを知り、実際に利用できたらと考えるようになった。
- ・BLSまでは受講していたが、その後の救命について学習することができた。
- ・少し意識はついた。
- ・チームワークがとれるようになってきた。
- ・18回やると慣れてきた。本番でもしっかり行動できるように頑張る。
- ・少し自信ができました。4名
- ・かなり変わりました。ACLSの全体的な流れや具体的な行動がよくわかるようになりました。
- ・蘇生に関して自分がどれだけ無知であるか痛感しました。
- ・チームワークの必要性、声に出し実施事項を周知することの必要性を実感した。
- ・1人じゃ何もできない事が身に染みてわかりました。今日は同期の研修医とチームを組みましたが、この先はコメディの方々や後輩ともチームになる時がくるのだと思うと、身の引きしめる思いになったし、準備が必要だと思った。
- ・VT・VF・PEA・Asystoleの鑑別とそれぞれの対応を頭の中に組み立てていくことができるようになったが、まだ治療やそれ以降の対処・検査などまで考えることができていないので勉強が足りない。
- ・続けていって下さい。本当にためになります。
- ・1度で身につけるのはむずかしいです。

◆アンケート◆ スタッフの声

1) 受講者の態度・意欲はどうだったか？

- ・積極的だった。
- ・全員真剣に取り組んでいた印象だった。
- ・とてもよかった。チームワークもよかった。
- ・コースが進むにつれチーム内の声かけができており意欲的だったと思う。質問も活発に見られた。
- ・まじめに楽しく取り組んでいた。3名
- ・グループで違ったが、おおむね良かった。
- ・静かなグループもありましたが、意欲はありました。
- ・少し元気がなかった。

2) 予備知識(予習含む)はどうだったか？

- ・問題となる事は、あまりなかった。
- ・個人差はあったものの、概ね予習できていた。(充分)
- ・予習しているような感じはなかった。
- ・やや知識に差があると感じたが、予備知識としては十分であったと思う。
- ・研修開始してまだ間もないので、個人差があった。2名
- ・まずまずでした。2名
- ・前回のコースに比べると元気がなかった。

3) ディレクター、インストラクター、アシスタント、チューターの指導はどうだったか？

- ・他のインストラクターに助けられながらシナリオの進行ができた。
- ・良く勉強されていた。2名
- ・明るいメンバーでした。
- ・適切に声かけが行えて手本になった。
- ・進行の方法やふり返り方法など勉強になりました。
- ・細かなところがあやふやでした。
- ・声かけが少なかった。

4) 今後について、ひとこと

- ・また参加させていただきます。3名
- ・要望はありません。
- ・継続して行きましょう。
- ・仲間を増やしましょう！

●改善点●

- ・チーム蘇生の時間が足りなかった。事前にどのくらい到達目標にするか話し合っておく方が良かった。
- ・エアウェイの補充。

準備する資機材(3ブース)

資機材名	必要数	備考
ハートシム、操作用PC	3	1台は予備
レサシアン	2	各ブースに2
バックバルブマスク	3	
AED	2	複数機種
気道管理トレーナー	2	
モニター付き除細動器	3	単相性 1 二相性 2
気道管理ボックス	3	各ブースに1箱ずつ
注射器10ml		
バイトブロック		
吸引チューブ		
エアウエイ		
経鼻エアウエイ		
聴診器		
ポケットマスク		
喉頭鏡(4.0)		
喉頭鏡柄		
チューブ固定具		
酸素マスク		
酸素カニュラ		
挿管チューブ		
スタイレット		
CO2チェッカー		
テープ		
点滴	3	各ブースに1つずつ
点滴スタンド	3	各ブースに1つずつ
ワゴン	3	
聴診器	3	持ってきてもらう
アルコール綿	多目	
ホワイトボード	3	
ホワイトボードマーカー4色	12	
ストップウォッチ	3	
メトロノーム	1	
延長コード	4	

**長崎大学病院
医療教育開発センター
救急医療教育室**

〒852-8501

長崎市坂本1丁目7番1号

電話 (095) 819-7881

FAX (095) 819-7882

作成:救急医療教育室 事務 花井